

横校労

2021年12月・2022年1月号 No. 532

横浜学校労働者組合

横浜市神奈川区西神奈川 1-3-6 コーポレジ 411
TEL 045-321-0512・FAX 045-313-0031
郵便振替 00240-0-49078 印刷所 (有)ワコー TEL 045-370-3394

E-mail: union@yokokourou.jp
<http://yokokourou.jp>

隔月発行 1部 200円 年間 手渡し 1,200円・郵送 1,800円

目次

- 不当な評価が反映される勤働手当への比重拡大は許されない
～2021賃金確定交渉レポート～ …… 朝野 公平 2
- 働き方いろいろはのこ
賃金は労働組合との交渉で決定していくもの! …… 平川 正浩 3
- 寄稿 長谷川さんをしるのぶ …… 山内 若菜 4
- 職場から …… 原 千尋 6
- 読者の声
文人的生活? 日日是闘日か …… 朝倉 賢司 7
- 3・11とアートの第17回「林檎農園主」
…………… 山内 若菜 8

学校の風景

夢の仕事 憧れの都会言コハ ～辛かった現実～

初任の頃から度々受ける、校長との面談が憂鬱であった。福祉職を一〇年やってきて、三三歳で転職し教職の道へ。自分の持っている教育の知識も過去のもの。一から学びなおすつもりでがむしやりに仕



—最近はおロードバイクで気分転換—

事をした。そんな自分に対して校長の目は厳しかった。「先生は教育の専門家です。担当生徒の実態把握から導かれる、専門的な教育方法を述べよ。」「その歳でこんな内容も分かってないようじゃ厳しいよ。」「初任の最後にやった研究授業みたいなこと二年目でしていたら、ほかの学校で使えない教員になっちゃうよ。」「なぜ学習記録をあなたはつけていないのか。他の教員なんて全員やっているよ。あなたは生徒を愛していない。生徒がかわいそう。」「二年間であらゆることを否定され、問われたことにすぐ返答できなかったり、思っている回答が得られなかったりしたときはため息をつかれ、鼻で笑われる。そのたびに委縮してしまい、余計にうまく話せなくなる。校長室の前を通るたび、できるだけ会わないようにと気を遣いながらすすす日々が辛かった。

そんな中、状況を変えたいと思い組合に相談。申し入れと交渉を行い、校長からの謝罪と面談時の副校長の同席、次年度の職員に向けたパウハラ研修実施の公約を取り付けることができた。しかし、コロナ禍の影響で予定が大幅に変更になり、公約にあった九月の研修は行われなかった。その間も、何事もなかったかのように明るく振舞って接してこられることが、苦痛であった。再度交渉を行い、先日、接触についてと研修の具体的な日程について、回答をいただいた。組合のおかげで、やっと自分の納得のいく結果を得られたことに感謝している。三年目になっても辛い日々で、プライベートにも精神的に支障をきたしていたので、この現状をととても嬉しく思う。本当に耐えられない状況に陥った時には、環境を変える努力をしなければいけないのだと、今となっては強く思う。普通に仕事がしたい。その願いがこれからも叶うように活動を続けていきたい。

2021賃金確定交渉レポート

書記次長 朝野 公平

交渉決裂、不当な評価が反映される勤勉手当への比重拡大は許されない

一〇月二三日、人事委員会が市長、市議会に給与勧告がなされ、横校労などの組合には一五日に勧告の説明会があった。昨年度は、特別給への勧告で、複数の組合への説明がなく、後に開催された説明会で各団体が人事委員会の不備を指摘し、横校労、がくろう神奈川は連名で抗議するに至った（詳細は本紙527号）。例年、勧告の後、当局と組合との賃金確定交渉が開始される。一〇月二七日、市庁舎にて当局から勧告通りの提案があり、横校労は以下を提出。

ゼロ回答

その後、十一月六日の交渉で労務課、鈴木係長より要求①には「できません」の一言のみ回答があった。職員団体を軽視した物言いに突止。交渉の体をなしておらず、その場で「非常に不愉快」と申し渡し、抗議を示すこととなった。勤務条件の中核たる賃金については、当局と職員団体の誠実な交渉によって定められるものであり、相応の理由や分析をもって説明するのが本来。当局が提示した人事委員会勧告にある「公民の格差」や「査定部分の割合の違い」からさらに踏み込んだ、政策面、

財政面を踏まえた指針を示すことがあって然るべきである。

要求②には例年通り「公表していません」との回答で、人事課から示されたものだという。読者諸賢は、二月一〇日支給の勤勉手当での自らの成績率を確認されたであろうか？全く分かりづらいこの成績率。職場で同僚に確認してみると、「えっ？何それ？」「ボーナスの月数のこと？」という反応が多数。職場の活性化に繋がっていないことは確かだが、大多数の教員が、自分への評価を知らずに、評価されていることすら知らずに稼働する制度は「不活性化」を促しているように見える。

区別はない

以下は自己観察書による管理職面談でのやりとり。

朝野「勤勉手当について、この職場でのAとBの分布の割合を教えてください」

管理職「どうして？」

朝野「この職場にはAはいるのか？何人いるのか？」

管理職「いる。人事課より示されている割合程度」

朝野「どの職場でも一〇%ほどらしいが、それは主幹とヒラの教員と区別されているのか？」

管理職「区別はない。」

主幹と教諭は、職が異なり、給与表が違う。査定での評価標準も違うのだから、Aは主幹で一〇%、ヒラ教諭で一〇%とするのが当然と思うのだが、区別されていない。私はこの一〇%、主幹に偏っていると予想するが、人事課、労務課、現場の管理職は数値を示さない。

開示請求

ならば、人事課に情報の開示請求である。市庁舎や各区役所に設置されている市民情報局で、手続きをとるだけで金銭の負担はなし。前述の要求項目を、窓口の職員に説明すると、その場で人事課に電話で確認をとった結果、「ないと言ってます。」とのこと。うーむ、どこまでも「ない」で押し通すつもりか？「それは、行政文書としてない、という意味では？勤勉手当は実際に支給しているのだから、一〇%歩譲って数値を把握していただくことができる。」と切り返すと、窓口の職員はカウンターの奥で、他と一言、三言、確認したのち「では書面に記入を」となり、手続き完了。さて、どうなるか？

横浜市教育委員会
教育長 鯉淵 信也 様

2021年11月10日
横浜学校労働者組合
執行委員長 平川 正浩

人事委員会勧告に基づく給与改定に関する要求書

教員の賃金は、今世紀初頭から「新たな職としての主幹の設置」、「年度末の昇給の差別化」、「特別給での勤勉手当への人事考課の反映」、「特別給の勤勉手当への比重拡大」により大きな格差が生じている。職によることなく分掌が配置され、協業が旨とされる学校現場において賃金の差別化、その拡大は容認できない。また、当組合が再三要求している「人事評価の分布」を貴職が公表をしないことは、制度の妥当性を検証できず、疑念を招くものである。

2013年国家公務員の給与の在り方に関する懇話会で示された「仕事の重要度や能力・実績に応じたメリハリのある給与」は、「人事評価を厳正に行う」ことが前提とされているが、本市の人事評価では、所定の面談がなされない、結果が管理職より配布されない、短時間勤務者への配慮事項がないなど制度設計の不備、制度の運用に妥当性を欠く事態が散見されていることから、不当な人事評価が反映される特別給での勤勉手当への割合増加は容認されるものではない。

人事委員会が示す労働経済指標では、2020年横浜市の消費支出は、前年同月比で8月（-27%）、9月（-37%）、12月（-18%）であり、全国よりも大きな落ち込みがある。また、近年、倍率低下が著しい教員採用希望者を鑑みれば、人事委員会の勧告を追随する必要はなく、本市独自の賃金面での教員、新規採用希望者への処遇を示すことこそ当局は検討すべきである。よって横浜学校労働者組合は以下の事を要求する。

- ① 特別給の改定については、年間4.45%を維持し、勤勉手当の支給割合を年間0.15%引き下げ、その分を期末手当に補充することを要求する。
- ② 勤勉手当での成績率について、過去5年分の「教員」「主幹」「副校長」「校長」ごとの成績率の分布を一覧表にして示すこと。

以上

働き方いろいろ

※ このコラム欄に質問や疑問がありましたら、いつでも編集部にメールしてください。



賃金は労働組合との交渉で決定していくもの!

私たちの期末・勤勉手当が引き下げられました。本来、労基法第2条1項「労働条件は、労働者と使用者が対等の立場において決定すべきものである」にあるように、最も重要な労働条件である賃金は憲法で保障された労働三権（団結権、団体交渉権、団体行動権）を駆使して労働組合と当局の対等な交渉によって決定されるものです。この時期、日本人パワーカーも増え注目されるアメリカ力大リーグの労使交渉はストライキなどで開幕が遅れたりすることも度々ですが、本来の労使交渉の姿を伝えてはいます。

しかし、私たち教員の給与決定のプロセスは大分異なります。地方公務員法第8条「人事委員会の給与に関する勧告」を経て横浜市当局の賃金案が労働組合（職員団体）に提示され始めます。つまり、当局から出される賃金案の根拠は人事委員会勧告によるものなのです。

私たちの賃金を方向付ける「人事委員会勧告」とは？

人事委員会（国は人事院）とは公務員の争議権が制限されていることでの代償措置として設置された人事行政の専門機関です。その勧告は尊重する義務はありませんが法的拘束力を持つものではないとされています。従って、自治体としての独自の判断が求められます。しかし、今回も横浜市は、私たち教員のおかれている労働環境、横浜市の経済をどう活性化させていくのかなどの判断をせず、思考停止したかのように人事委員会勧告に従うだけでした。ではその人事委員会勧告の数値の根拠は何なのでしょう。それは民間企業の賃金に基づいています。従って、いわゆる「春闘」と呼ばれる民間労働組合による賃金確定交渉の結果が私たちの賃金に直接に大きな影響を与えているのです。

民間企業の賃金状況はどのようになっているのか？

資料1を見て下さい。労働者による生産活動によって生み出された付加価値のうち労働者に分配される比率を労働分配率といいます。「会社が稼いだお金をどれだけ社員に分配するか」を表します。このグラフは大企業のもですが、2009年をピークに下がり続けています。一方、資料2で分かるように逆に営業純利益は同年度から上がり続けています。

企業の取り分が増えて、労働者の取り分は減っているのです。この事には、資料3にも明らかです。日本の労働者の実質賃金は下がり続けて、企業の内部留保金は上昇し続けています。2020年度の日本の平均賃金はOECD35カ国中22位に転落しました。1997年度は3位でしたから、その凋落ぶりは顕著です。これは、

アベノミクスがもたらしたものの、労使協調組合である「連合」路線（浜教組）がもたらしたものです。

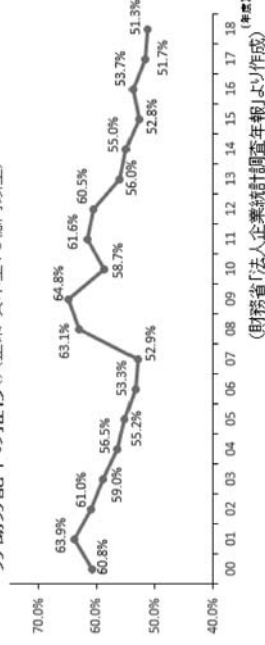
人事委員勧告に無自覚に従う必要があるの？

コロナ禍にあって、学校現場は通常業務に加えて感染予防、分散登校、オンライン授業、特殊な出欠管理、感染発生時の対応などに追われてきました。これまで通り「残業代ゼロ」、休憩時間の取得もままならない中です。ですから、この賃金引き下げは働く意欲を著しく低下させるものです。更に、上記のような状況で民間の給与が下がっているから公務員の給与も下げるといふのであれば、いつまで経っても、賃金引き下げの負のスパイラルは続きます。労働意欲を高め、購買力も高め、内需拡大から経済を回す方向こそが必須です。期末・勤勉手当の削減はすべきでは無いのです。

（中支部 平川 正浩）

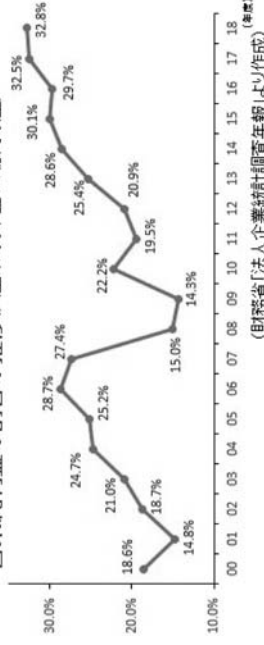
資料1

労働分配率の推移(大企業 資本金10億円以上)

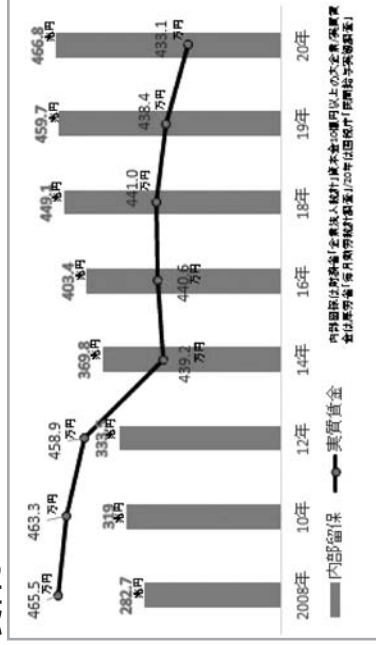


資料2

営業純利益の割合の推移(大企業 資本金10億円以上)



資料3



寄稿

長谷川さんをしのぶ

山内 若菜

九月一日でした。

長谷川健一さんを見た時、その姿に心打たれ「遺言」の豊田直巳監督が、私が訪れたその日、長谷川健一さんを撮影されていた。

長谷川さんの死因は「甲状腺がん」。ただ、甲状腺がんの中でも、重い、やっかいな種類の甲状腺がんなのだとお聞きしました。

目が印象的。信念を持ち、向こう側を見据える眼差し。大好きな方でした。

私が飯館村に通い続けるようになってから九年がたちます。最初の頃は馬が死んでいたし、線量もすごく高かった。

そこでずっと暮らされてきた長谷川さんは、どれだけ被ばくしたのだろう。ソバ作っていても、さまざまな取材依頼を断り、「いかにも復興してやっていますよ、みたいな広告塔にはなんねえ」と仰っておられた、カッコいい長谷川さん。

看護婦さんが診察に来ておられ、面会を希望する私に「あまり長くいないであげてね」とポンと肩に触れた。

長谷川さんは、相当悪くなっておられるのだ。長谷川さんの絵を描いている手を止め、私は発言しました。

「長谷川さん、私は飯館村の工場跡地で絵の個展をします。飯館村の動物たちを描いた、いきいきと走りゆくさまを描いた壁画作品、一〇mの大きな絵を展示します。ぜひ見に来てくださーい」

そして、似顔絵をその時描き、プレゼントした。その時の写真です。豊田直巳監督も絵と一緒に長谷川さんご夫婦を撮られています。



この時の、一瞬の和み時間を忘れられません。似顔絵が特技で良かったと思うのでした。

原発事故は長谷川さんの生業を一気に壊しました。

長谷川健一さんは、原発事故直後、村が高濃度の放射能汚染に見舞われたにもかかわらず、それを隠蔽しようとした村や東電の対応を告発してこられました。

本や講演で、日常で、酪農仲間の自殺、思いを背負い、しっかり声をあげた。ともに声をあげ、健一さんの世話をされていた奥さん

の花子さんも描いた。二人とも本当に、素晴らしい方。

村の人の様子を見てみると、それがどんなに勇気がある事かわかります。心優しいけれど、賠償金をもらえない川俣や一部の人から比べれば自分たちはしあわせだと、がんの治療をしている方も本当に多く、身近な方ががんで去っていくのを見てきたが、村人は医療費がタダ。運が良かったと、そんな風になりがたがって言う方は本当に多いのです。

一月一日。一が並ぶ日。一時一分。電車で大きな絵を運び、村に持ち込み、工場跡地で、現地制作しました。馬を見に行っては描く、の繰り返し。

広い工場で、一〇mの絵が一望できる。嬉しい。夢中で描きました。

夜は村人と御飯を一緒に食べお酒をかわしながら、選挙の話になりました。みんな自民党に入れたというので、農家の方に意見を聞きました。

「なんで飯館村で、農家の方は自民党にいれるのですか。米価を下げ、原発を推

進してきて、今もー。」

「村では、助け合いなんだあ。自由民主党、名前もいい。絆を大事にしてくれる。」

「避難生活一〇m年、その怒りの声をあげる一票にしたいならば、選挙で原発反対する人に入れる、核兵器禁止条約に批准する政党に入れる、米問題でもアメリカのいいなり政治を終わらせるために一票を入れるべきではないか」

熱く声をあげてしまった。しーん。場違いな熱さ、失礼致しました。しらせ鳥の飛ぶ夜はふけてゆきました。

そして翌日、飯館村でゲリラ個展を開催しました。わけあって、たった二日間の個展でした。

長谷川さんが個展で絵を見る事は叶いませんでしたが、追悼の意味で祈るように絵が展示できたように感じました。

村の人に見てもらえた。政治の話をした農家の人も来ました。

「こりゃあ、大きい。元氣になった。村にいてこんなすごい絵を見せてもらえて嬉しい。明日から、農業を



がんばりたいって思えた」と、言ってもらえ、一時間もゆっくりご覧いただきました。選挙の話ではしらけたけれど、今は心から通いあえている、この感じ。嬉しい。

次から次へ、奄美大島から飯館村に移住されたご夫婦、東京から移住された方、牧場の方など様々なお客さまが来られました。

二〇一八年から移り住まれた方は、村人からイノシシを買ったからと食べたら、翌朝下血したため、ホールポデーターカウンターではかってみたところ、「村のイノシシを食べるのは、今後やめておきましょうか」と注意勧告されたそうです。まだ

まだ野生動物は食べられないレベルだと思うのですが、二〇二二年も松茸狩りの話を楽しそうにしていました（今も村でイノシシやキノコ狩りは禁止、あげるのも禁止です）。

長谷川さんがこの絵を見たらどう思うだろうか。そんなことがずっと脳裏にありながら、短くも長い時は流れてゆきました。

飯館には事故前の約二割の人が帰村しています。

ここは私の第二の故郷だと、たとえばの自分を感じてみる。ずっと暮らしていたら、心底許せないだろう。怒り。赤い岩場がある。そこに血をながしながら死ん



でいった牛の親子が見える。白斑が出て夜のなかうかびあがる白い点が見える。

野生動物が走り去る様子が見える。自然はいつも厳しさを、動物たちに与えるけれど、いざ動物になって駆けゆけば、なんて自由なのかと思うのかもしれない。

村の風はすがすがしい風。颯爽と走る。感情を記憶する。そのバトンを受け取り、次の世代へ渡したいというように感じる。

世界はこうでなければな

らないという政治的な動かされ方でなく、ただ絵描きが、飯館村の方の感情を残したいという、つき動かされかたも、あっていいのではないか。

長谷川さんの信念を受け継ぎ、長谷川さんが死んでもなお生き続けるためにも、様々な場所で、生きづらさを感じている若いひとたちにも、絵を見てもらいたい。意思を継ぐということは、自分が表現する上で糧とし、忘れずに生かし続けるということでもある。肉体は滅



びても、そんな事では長谷川さんの志、命は終わらない。

忘れない為にも、素晴らしい絵を描き続けなくてはならない――

飯館村からの帰りの電車のなか、ひとり誓いました。

新幹線では、乗客に大きな絵をぎよつとされながら帰宅。

大きな作品は人間一人分くらい。はた迷惑な乗客です。

さあ帰って絵を加筆しよう。

横校労は二〇二二年五月にメーデー研修で伊達の仮住宅に長谷川健一さんをお訪ねしてお話を伺い、飯館村を案内していただきました。雨どいの下で線量計が吹っ切れた衝撃は今でも忘れられません。翌年の新宿での写真展&講演会や著書「映画「遺言」原発さえなければ――」などを通して、原発問題を考えるためのたくさんの種をいただきました。計報に接し、心より感謝と哀悼の意を捧げます。

(中支部 田中 敏治)

職場から

教員として採用されて一年九ヶ月がたった。採用試験の面接で試験官から「志望理由」を聞かれた際、「特別支援教育の中で、生徒の出来ることを一つでも増やし、自立に繋げていきたいと思ったから」と返答した。実際に大学生時代に参加していた、特別支援学校の生徒が利用する学童のボランティアでは、接し方や支援の仕方によってもっと可能性が広がる生徒さんばかりに思えた。自分が先生になったら、一人でも多くの生徒さんの可能性を広げるのだという思いをもって採用試験を受けた。

しかし、実際に自分の一年九ヶ月を振り返ってみると大学の時の自分が見たらがっかりするような教員なのだろうと思う。自分が思い描いていた教員像は、「授業に向けて事前にたくさんの準備をして、一人ひとりに合わせたきめ細かい支援を毎時間行う」というようなものだった。今

の自分に出来ているとはとても思えない。教員になる前は、先生という職業は「授業」が一番大事なのであって、それに向けての教材づくりに一番時間を費やして授業に臨むものなのだと思っていた。しかし、実際に採用され、働き出すと事務作業の多さや、部活など、授業外の仕事が多い事に驚いた。実際に授業について考えることが出来るのは毎日定時を過ぎてからである。二年目でまだまだ要領が悪い事で時間外の業務が多くなっていることも分かっている。しかし、時間外の業務が多くなればなるほど自分の心に余裕がなくなり、一番大切にしたい一人ひとりに対するきめ細やかな支援から遠のいてしまう。自分が余裕を持てずに生徒たちに接してしまうと、必ず生徒達にも伝わる。実際に焦っている時ほどトラブルの数が増える。日々の生活の中で心の余裕を持って生徒達に接するためにも、心と体にゆとりを持てるような工夫や業務改善を行っていきたくと改めて思った。

(中支部 原千尋)

読者の声

隔月刊「横校労」を読んでの感想等がございましたら編集部まで是非お寄せください。

いつも職場で疑問に思うことを職場で議論する余裕もなく、愚痴で終わってしまうことを、横校労はそのような疑問を行動で打開しようとしていることに敬意を表します。

私自身は何か行動を起こすことはなかなか難しく感じていますが、せめて機関紙を読んで、自分の感じ方を曲げないでいられることを大事にしていきたいと思います。これからも応援しています。

(横浜市立中学校職員)

職員のレターケースに入る機関紙を初めのうちは写真や見出しだけ眺め、目次に職場の同僚の名前を見つけた時だけ、その記事を読み古紙置き場に入れていました。組合活動にさして興味がなく敬遠してきましたが、このコロナ禍で教師の働き方や仕事量の多さ、求められることに違和感を感じ、その違和感に「横校労」では声を上げているのだなあとよく読んでみると感じさせられました。

自分の職業なのに今まで労働環境に対しても何も感じず受け入れていたこと、知識や情報は大切だと考えるきっかけになりました。

(中学校職員)

「横校労」購読料カパのお願い

いつも「横校労」をこ愛読いただきまして、ありがとうございます。

二年目に入った学校現場での感染症対策は、「できないではなく、やれることをやる」という市教委、管理職とそれに連なる教員たちによる論功のステップになっています。緊急事態も名ばかりになり、感染リスクを主張する者には「やる気がない」というレベルは貼る心性を「横濱版何やら」というのでしょうか？

私たち教職員にとって、一段と厳しい労働状況が生み出されようとしている今こそ、行政に頼ることない現場本位の運動が必要となっています。

こうした状況下にあつて横校労は、校長交渉、市教委交渉、文科省交渉を通して、全職員のPCR検査実施、現場教職員への感染防止策、長時間労働の是正、休憩時間の確保、諸権利の要求し、現場に生起する課題に向き合い、組合員一人ひとりを守るために、組織的に取り組ん

でいます。「横校労」は、こうした一連の取組を掲載し、読者の皆さんに報告しています。発行を通して少しでも現場の勤務条件の向上につながることを期待しながら、取組を継続していきます。今後とも、「横校労」への「ご支援」と「協力」に感謝を申し上げ、購読料カパをお願いするものです。今号に同封の別紙をお使い頂き、組合員への手渡し、もしくは郵便振替での送金をお願い致します。

振替口座 00240-0-49078

文化的生活？ 日々は闘日か

文化的ならざる日々を過ごしているが、最近の身边雑記を伝えたい。

一〇月二八日 自主夜間中学のボランティアで六年目になる。以前、母親が比国人の母子家庭の生徒を三年間担当していた。本人の希望が叶い大学入学を果たしたのだが、経済的にとても苦しくいろいろな制度を利用してやっと通学していた。この日、本人が大学を退学していたと周りのスタッフから初めて聞いた。コロナ禍のため生活の充てにしていたアルバイトもままならず、経済的に行き詰まってしまったようだ。精神的にも大きなショックで通院しているという。日本人の父も幼少期に無くし経済的にも精神的にも厳しい中で、これからの人生を送らなければならぬ。真面目に人生を考え、夜間中学にきていた時も社会のことも含め将来のことまで夢見ている青年だ。受けた挫折を何とか乗り切ってもらえるだろうか。この二年間で多くの中小零細店がつぶれたり、大学を中退したりする人が続いた。国や政

府がするべき支援は、最も弱い部分には必要な時に必要なだけ及んでこなかったのだ。今年になっても、夜間中学にしばらく来ていたベトナム人の元技術研修生も会社から捨てられたようなものだった。外国籍の人が増えている夜間中学の一場面である。

十一月六日 「近代とは何か、ずっと考えてきました」という石牟礼道子の小説「樺の海の記」を、友人が「朗読演劇」で上演するので、午後からその手伝いをした。

小説「樺の海の記」は石牟礼道子が生まれ育った水俣での幼少期を描いた作品で、チソン工場の地でもある。演者である井上弘久は、昔太田省吾が主宰していた「転形劇場」で亡き大杉蓮などと一緒に舞台に立ち、この五年程はカフカの「変身」やブコウスキ、江戸川乱歩作品を朗読演劇で上演してきている。石牟礼道子の「樺の海の記」の作品に出会い感銘を受けたことから、三年間かけ十一章全部の舞台化を終え、今秋からは全国

行脚の再出発地として、東京、千葉と巡りはじめた。

彼とは高校時代からの長年の友人であるが、この年齢まで役者を続けていること―生活が如何に大変かは、知る人ぞ知る―同時にこの年齢でも一時間半以上に亘る台詞を一人でこなすという才能と努力に敬意を表するのみだ。芝居内容の秀逸さは勿論だが、効果・伴奏ではコントラバスの吉田水子、作曲は金子忍という三人で素晴らしい舞台を作り上げている。舞台は昨年に引き続き、ジャズスポットを続けてこられた栗田さんが今年も提供してくださった。千葉で長年魅力ある教育実践を続けられ、横校労などと共に全学労組の仲間でもあった人だ。当日は数人の視覚障がいの方も含めジャズスポットの会場はいっぱいになった。演者の井上弘久は「樺の海の記」を持って、新春から大和市、茅ヶ崎市を反切りに石牟礼道子の地・九州でも公演するという。今後もエールを送り続けたい。

それにしても、欧米に比して芸術活動に関しても日本政府の文化政策―経済的支援―の貧困さには呆れるばかりだ。文化勲章・功労賞を授ければよいとい

うものではない。一部の芸能人以外の多くの芸術関係者の生活を、コロナ禍のような時も含め保証せよと言いたい。文化を解さない政治家どもの存在こそ、非文化的で不要だ。

(大船支部 朝倉賢司)

夏休みの

2021年10月

- 14日(休) 大船支部会
- 15日(金) 人事委員会給与勧告
- 20日(水) 東支部会
- 27日(水) 市教委交渉
執行委員会

11月

- 4日(休) 中支部会
- 10日(水) 執行委員会
- 16日(火) 賃金確定交渉
- 17日(水) 東支部会
- 24日(水) 執行委員会
- 26日(金) 上菅田特別支援校長交渉
- 29日(月) 人事異動確認提出
教職員労務課

12月

- 1日(水) 中支部会
- 6日(月) 若葉台中学校 情報開示
請求
- 8日(水) 執行委員会

編集後記



異動希望者の人事異動カードの提出期間が終了しました。横校労では毎年、異動を希望する組合員一人ひとりの配慮事項についての再確認を教職員労務課と行っています。その席で、三月三十一日の新聞に載る「教職員人事異動」の欄への掲載を断ることができるのかを質問したところ、結果は、「拒否できる」とのことでした。児童生徒や関係者の個人情報保護については口うるさく言われていますが、私たちは守られている実感がありません。大会社の役員でもなく、公務員だけど幹部でも校長でもないのに掲載されることに疑問をもっていました。

学校たより等が地域の回覧板に挟まってきますが、教員の個人情報が載っていることがありますし、性急なオンライン授業にも危険が潜んでいます。教員の個人情報や肖像権は意外に無防備だと思いませんか。

(K)

連載第17回

3. Uとアート — 「林檎農園主」 —

山内 若菜

福島で林檎農園を営んでいた渡邊正典さんは、日赤長崎原爆病院の放射線科の医師によると明らかに被ばくが原因

の大腸がんになり、退院後は避難先で林檎農園を営んでおり、今は講演会もしているそうです。傷口やガン三箇所

画像を見せて頂いてからかなり時が経ちました。「林檎を育てるんだ」と奇跡的に歩けるようになった、林檎と共に

生きる渡邊さんの姿を描きたいと思いました。



山内若菜情報はこちら

山内若菜HP <http://www.cityfujisawa.ne.jp/~myama/>
 若菜絵ブログ <http://wakanaeblog.seesaa.net/>
 または「若菜絵ブログ」と入力

おわりははじまり 山内若菜展 in 鶴見

12月23日(木)~25日(土)
 場所：鶴見サルビアホール
 JR鶴見駅東口すぐ